



2014年5月20日

IPPO IPPO NIPPON プロジェクト第5期活動
～活動報告書～

IPPO IPPO NIPPON プロジェクト
共同委員長 長谷川 閑 史
((公社)経済同友会 代表幹事)
石 田 建 昭
(中部経済同友会 代表幹事)

・活動概要

(1) 活動方針

IPPO IPPO NIPPON プロジェクトは東日本大震災からの復興支援活動の実施に際し、被災地復興の基盤となる「人づくり」と「産業活性化」に貢献することを基本方針としている。

第5期活動では、第9回運営委員会(2013年6月3日開催)および第10回運営委員会(2013年7月16日～19日書面開催)において、特に大きな被害を受けた岩手県、宮城県、福島県への支援にほぼ均等に配分するとともに、各県の復旧・復興状況を踏まえ、参加企業・個人から預かった寄附を被災した専門高校への実習機材提供、国公立大学による復興支援事業及び宮城県教育委員会が主催する第24回全国産業教育フェアの開催資金への資金援助を継続する旨を決議した。

また、併せて、寄附目標総額を2.4億円(専門高校約2.06億円、国公立大学2,500万円、全国産業教育フェア1,100万円)と定めた。

(2) 寄附募集

第5期活動では、当プロジェクトに対する寄附について東京国税局による寄附税制適用の確認を得た(2013年8月26日付)ことから、2013年9月1日より寄附金の受付を開始した。以降、2014年1月31日の期間満了までに、197の企業・法人ならびに25名の個人より寄附金を受領した(「 . 収支報告書」を参照のこと)。

(3) 支援活動

第5期活動では、参加企業・法人より受領した寄附金を第9回および第10回運営委員会での決議に基づき、岩手県・宮城県・福島県の3県にほぼ均等に配分し、以下の支援に充当した(「 . 収支報告書」を参照のこと)。なお、被災し

た職業高校への実習機材の贈呈については、各県教育委員会と寄附募集前に協議を重ね、各校における優先度に基づいて支援内容を決定している。

1) 岩手県

被災した専門高校への実習機材提供

岩手県内では、高田高校、大船渡東高校、宮古工業高校、久慈東高校に添付実習機材を提供した。2013年12月上旬に久慈東高校にダイビング機材一式を寄贈して以降、各校に順次、実習機材の納入を行い、1月末の高田高校への顕微鏡等の寄贈をもって第5期活動による岩手県内の専門高校への実習機材提供を完了した（添付「機材一覧」を参照のこと）。

国立大学法人岩手大学

国立大学法人岩手大学が実施する震災復興プロジェクト「三陸地域復興センター」に対して、2014年2月19日付にて1,400万円を入金した。

2) 宮城県

被災した専門高校への実習機材提供

宮城県内では、宮城県農業高校、宮城県気仙沼向洋高校、宮城県水産高校に添付実習機材を提供した。2013年11月中旬に宮城県気仙沼向洋高校仮設校舎に複写機、ピペット洗浄機などを納品して以降、各校に順次、実習機材の納入を行い、3月末の宮城県水産高校へのヨットの搬入をもって第5期活動による宮城県内の専門高校への実習機材提供を完了した（添付「機材一覧」を参照のこと）。

宮城県教育委員会 全国産業教育フェア開催資金

宮城県教育委員会が主催する第24回全国産業教育フェア開催資金として、2014年2月19日付にて1,587万3,153円を入金した。

国立大学法人東北大学

国立大学法人東北大学に対して、東北大学病院が実施する「被災地医療体験実習事業」の運営資金として2014年2月19日付にて500万円を入金した。

公立大学法人宮城大学

公立大学法人宮城大学による「復興ステーションプロジェクト」に対して、南三陸町における復興支援事業などを行うための資金として2014年2月19日付にて1,400万円を入金した。

3) 福島県

福島県内では、いわき海星高校、磐城農業高校、小高工業高校、双葉翔陽高校、相馬農業高校に添付実習機材を提供した。2013年11月にいわき海星高校にステ

ンレス貯蔵タンク等を寄贈して以降、順次、実習機材の納入を行い、3月末に同校への普通旋盤等を寄贈して第5期活動による福島県内の専門高校への実習機材提供を完了した（添付「機材一覧」を参照のこと）。

・収支報告書（添付収支内訳参照）

（1）収入の部

第5期活動では、2013年9月1日の受付開始以降、期間満了となる2014年1月31日までの間に、個人25名より432万3,000円、197の企業・法人より2億5,867万1,200円の寄附金を受領した。また、その間に発生した受取利息収入7,351円についても寄附金に支援に充当することとした。以上により、第5期活動における収入は総額2億6,300万1,551円となった。

（2）支出の部

第5期活動では、総額2億1,412万8,398円の実習機材を被災した専門高校に提供した。内訳は、岩手県7,359万2,178円（高田高校1,384万7,946円、大船渡東高校1,846万3,840円、宮古工業高校3,188万951円、久慈東高校939万9,443円）、宮城県6,662万7,665円（宮城県農業高校2,236万4,150円、宮城県気仙沼向洋高校2,143万4,091円、宮城県水産高校2,282万9,426円）、福島県7,390万8,555円（いわき海星高校5,031万9,066円、磐城農業高校451万5,000円、双葉翔陽高校599万6,739円、相馬農業高校369万3,900円）となった。なお、各実習機材の購入に際しては、丸紅プロテックス株式会社、コマツ福島株式会社、盛岡日産モーター株式会社に発注し、据付調整・搬入まで実施した。

国立大学による復興支援事業への資金援助については、国立大学法人岩手大学三陸地域復興センターに1,400万円、国立大学法人東北大学東北大学病院被災地医療体験実習事業に500万円、公立大学法人宮城大学復興ステーションプロジェクトに1,400万円の支援を実施した。

宮城県教育委員会が主催する第24回全国産業教育フェア宮城大会の開催資金の支援として、宮城県教育委員会に1,587万3,153円の寄附を行った。

以上により、第5期活動における支出は総額2億6,300万1,551円となり、収入全額を支援活動に充当し、差引収支額は0円となった。

以上